

第十回  
十湖賞

俳句大会  
入選句集

人と人 心ふれあう未来へ 東区

■主催／浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会、浜松市

■後援／静岡県教育委員会、浜松市教育委員会、静岡県俳句協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、NHK 静岡放送局、  
テレビ静岡、静岡朝日テレビ、静岡第一テレビ、K-mix、FM Haro!、ケーブル・ウィンディ

平成 30 年 2 月発行

<発行元> 浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

<事務局> 浜松市東区役所区振興課内

浜松市東区流通元町 20 番 3 号

TEL 053-424-0115

E メール e-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp

# 「十湖賞」と「浜松市東区俳句の里づくり事業」

松島十湖翁は江戸時代末期、現在の浜松市東区豊西町に生まれた俳人にして政治家、さらには地域貢献に務めた篤志家です。生涯に詠んだ句は七千句とも言われ、全国各地に多くの門人がいました。

十湖翁の俳句は、松尾芭蕉からの蕉風を継承すべく、花鳥風月といわれる春夏秋冬・四季折々の自然、その中ででの生活を詠む伝統的なものです。

「はま松は出世城なり初松魚」は、「出世の街・浜松」を象徴した、浜松を誇る気持ちを詠んだ句です。

東区では、こうした十湖翁の遺徳を称えとともに、「郷土を愛する心」を今に伝えるべく「十湖賞」俳句大会を開催しています。

元来、東区内には多くの句碑群があり、多くの俳人も輩出していることから、「俳句の里」としての側面を垣間見ることが出来ます。

浜松市東区及び実行委員会では、このような背景のもと、「浜松市東区俳句の里づくり事業」を行っています。

## 第十回「十湖賞」俳句大会入選句集

平成30年2月18日(日)  
於 浜松市福祉交流センターホール

### 目次

ごあいさつ	2・3
十湖大賞	4
十湖賞	5
東区長賞	
県教育長賞	6
市教育長賞	
特選	7
佳作	8・9
奨励賞	10 ～ 13

### 選者

九鬼あきゑ氏

(「推」主宰)

笹瀬節子氏

(「みづうみ」主宰)

鈴木裕之氏

(「海坂」主宰)

高柳克弘氏

(「鷹」編集長)

※五十音順



### 第十回「十湖賞」俳句大会投句実績

一般の部		高校生の部		中学生の部		小学生の部		全 体		一般の部・地域別	
人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	地域	投句数
705	1,315	1,471	2,604	1,753	3,091	2,499	4,295	6,428	11,305	市内	844
										県内(浜松市外)	131
										県外	340
										合計	1,315

※募集期間：平成29年7月3日(月)～10月2日(月)

第十回「十湖賞」俳句大会は四部門で六千四百二十八人から一万三千三百五句の投句をいただくことができました。投句された皆様に深くお礼を申し上げます。

今大会では、一般の部においては三十八都道府県からの投句に加え、海外からも応募をいただきました。今回から応募できる句数が、これまでの一人四句から二句となり、投句数の減少を心配していましたが、結果として投句数は、昨年を大きく上回る結果となりました。特に高校生、中学生、小学生の三部門で投句者数と投句数が大きく増加しており、若い世代が俳句に関心を持つ切っ掛けとなることができただけでなく、結果として

また、今回は句題を設けず、日常生活の中で感じたこと、思ったことを自由に詠んでいただきました。句題を設けなかったことにより、どの句についても作者の気持ちが詰まり、気持ちの籠った素晴らしい句が集まっていると感じています。自然や日常生活の中の何気ないことを見つめ直し、俳句に詠んでいただくことで新たな感動や発見があったのではないかと思います。

浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会では、俳句を通じ、郷土を誇り愛する気持ちを育むとともに、俳句文化の振興を図るため創意工夫を重ねてまいります。

終わりに、入選された皆様に心よりお祝い申し上げますとともに、投句していただいた皆様のますますのご活躍をご多幸をお祈り申し上げます。

## 浜松市東区長 小楠 浩規

東区では、現在の東区豊西町に生まれ明治・大正時代に活躍した俳人松島十湖翁により培われた俳句の盛んな地域性を活かし、平成十九年度から「俳句の里づくり事業」を実施しております。

今年度は、この「俳句の里づくり事業」が十周年の節目を迎えることになりました。この間、多くの皆様に支えていただいたことに深く感謝申し上げます

さて、この事業では「十湖賞」俳句大会のほか、東区内の小中学校の児童生徒へ俳句に親しむ機会を提供する「小中学校俳句講座」、市内に数多く残る句碑を巡りながら俳句を学ぶ「句碑めぐりツアー」等を行い、地域の俳句文化の振興を図っています。

このほか今年度は十周年記念事業として、浜松ご当地アイドル「H&A.」が歌う俳句の里オリジナル応援ソング「みんなでゴー・シチ・GO!」の制作、松山市が行っている高校生の俳句全国大会「俳句甲子園」の浜松版として「高校生俳句選手権」の開催、松山市在住の俳人・夏井いつき先生をお招きして「記念講演会」なども行いました。

今後も地域の財産である俳句を通じ、地域の皆様に郷土への誇りと愛着を持っていただけるよう、様々な取り組みを行ってまいります。

結びにあたり、「十湖賞」俳句大会に投句していただいた皆様、選考していただきました選考の方々、そして本年度の「俳句の里づくり事業」に携わっていただいた全ての皆様に深く感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

## 十湖大賞・十湖賞へ小学生の部▽

どう見てもみどりのゴーグルおにやんま

豊西小学校六年 岡本紗和

評：鬼やんまは蜻蛉の王様で、なかでも大きな複眼が特徴である。それを「みどりのゴーグル」と表現されたのには驚いた。およそ類想のない句で、一際輝いていた。上五の「どう見ても」の出だしも自然体でいい。（九鬼あき晃）

## 十湖賞

### へ一般の部▽ 湖の国の味なり今年米

滋賀県草津市 中村健治

評：自ら収穫した「今年米」であろう。「湖の国の味なり」と、呟いているではないか。湯気を立てている新米の前に、春からの農事の数々を思い返しながら、くり返す新米への讃辞は、瑞穂国の人の魂の声なのである。（笹瀬節子）

### へ高校生の部▽ 遠き日の数珠玉いまも箱の中

浜松学芸高校二年 宮崎夢

評：幼い日に、集めた数珠玉を、箱にしまっておいたのだ。子供だった時間は戻らないが、箱の中の数珠玉が変わらないように、思い出は確かに心の中にある。懐旧の情を、即物的に表現して、確かな読み応えの一句。（高柳克弘）

### へ中学生の部▽ 兜虫戦いあつて黒光り

丸塚中学校二年 岡本佳時

評：闘牛のごとく生き物を戦わせるのは哀しい。しかし、この句のように一緒にあって楽しんでいけば兜虫も嬉しいに違いない。戦いが終って黒びかりしている兜虫に拍手を送る作者の眼は優しく笑ってるようだ。（鈴木裕之）

## 東区長賞

〈一般の部〉

還りゆくものの安けさ木の実降る

浜松市中区 原百合子

評：地に落ちた木の実のほとんどは、そのまま土に選っていく。自然の摂理は非情だが、それに従うことは、安らぎでもある。輪廻転生を代表するものとして素朴な「木の実」を持つてきたのが、いかにも俳句的（高柳克弘）

## 県教育長賞

〈高校生の部〉

空の祖母蜻蛉になつてやつてくる

西遠女子学園高校一年 吉田蒼惟

評：私達を大切にしてくれた祖父や祖母は忘れられない。今も心の中に生き続け励ましてくれる。側においてほしい気持ちがよみがえってくる。その祖母は蜻蛉となつて作者に会いに来てくれた。「元気かな」と。（鈴木裕之）

## 市教育長賞

〈中学生の部〉

出張の父待ちわびる初秋刀魚

天竜中学校二年 住吉誠一朗

評：「父待ちわびる」と、「初秋刀魚」を焼いて、出張の父を待つ家族のぬくもりが伝わってくるシーンだ。「さんまさんま苦いか塩っぱいか」と、佐藤春夫の詩は、かつては庶民の味であった。今や、高級魚となった。（笹瀬節子）

〈小学生の部〉

なすの牛じいじ天から会いに来る

北浜南小学校五年 袴田歩里

評：「なすの牛」は、お盆の時、精霊棚にお飾りする。これに乗ってご先祖さまがお帰りになるからです。「じいじ天から会いに来る」は、君のじいじを思う気持ちがよく表現されていて感心しました。（九鬼あきゑ）

## 特選



〈一般の部〉

故郷は大河のほとり鮎鱈

浜松市浜北区 古木ヒロ代

間引菜の土やはらかに香りけり

岡山県岡山市 信安淳子

〈高校生の部〉

校舎から見える街並風薫る

浜松東高校一年 高山脩

将来を考え揺れる冬の波

浜松東高校一年 居村伊樹

〈中学生の部〉

風鈴に描かれた花風と舞う

笠井中学校三年 工藤吏桜

若竹よそのりりしさは心もか

笠井中学校三年 岡本 琉来

〈小学生の部〉

庭を見るなにとりっぱな筍が

和田小学校六年 山本リュウタ

影見つけ皆で取り合う夏の山

与進北小学校六年 野尻 有真



# 佳作

## △一般の部▽

かささぎや大天竜に橋を置き

浜松市浜北区 村松 和憲

流燈の語り合ふごと揺らぎゆく

岡山県総社市 尾関 當補

赤石へ一斉起立曼殊沙華

浜松市西区 古橋 てる子

昏れさうで昏れぬ大地や吾亦紅

浜松市西区 成瀬 喜義

あの雲に戦の記憶曼珠沙華

浜松市浜北区 松本 重延

母からの踊りに来いというメール

熊本県八代市 貝田 ひでを



## △中学生の部▽

さくらんぼはかなき恋の味がする

笠井中学校三年 村木 和志

髪を切りロングとショート両方暑い

与進中学校一年 藤川 ありさ

とれたての愛がつまった夏野菜

与進中学校三年 栗本 彩菜

水そうの外をながめる金魚たち

中郡中学校一年 東海

合唱が独唱になる秋の蝉

聖隷クリストファー中学校一年 竹内 みつき

テニス部は下弦の月をみて帰る

冨塚中学校一年 池谷 百世

## △高校生の部▽

墓参り記憶の中の笑顔かな

浜北西高校三年 日吉 優華

夕風や駆け抜けていく波の音

浜松東高校二年 小柳 幸穂

原爆忌未来に残すその姿

浜松東高校一年 毛利 龍

でで虫や海の向こうを夢に見る

浜松学芸高校二年 片岡 優宇

勉強中部屋の中には涼むカナブン

浜名高校一年 鈴木 大翔

最後の夏最終打席で空を切る

浜北西高校三年 澤口 颯太

## △小学生の部▽

カブトムシつのいっぽんでちからもち

北浜南小学校三年 夏目 修都

草刈ってぼくの頭も床屋いく

蒲小学校六年 澤田 大雅

きつつきのエサをもとめるノック音

有玉小学校六年 岡田 柊利

すすきゆれ見てる私もゆれ動く

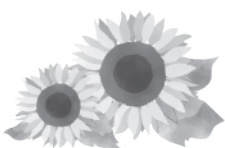
有玉小学校六年 和泉 利來

雨上がりきらきら光るクモの家

和田小学校六年 横山 広門

たいようのこどもはきつとひまわりだ

積志小学校六年 仲村 琉花



# 奨励賞

へ一般の部

鳥威し目玉大きく吹かれをり

浜松市北区

山口英男

まほろばや稲穂波うつ遠江

浜松市中区

鈴木賢三

テトラポッド生れは天童春の砂

浜松市中区

竹田道廣

伏流の溢るる池塘秋涼し

山形県東根市

富樫正義

焼け残る一揆の寺や吾亦紅

静岡県湖西市

二松祥子

敗戦日壁の利鎌が日を反す

浜松市東区

越川都

出棺や桜吹雪の豪華なり

浜松市東区

石田しづこ

帰省せぬ子に裏山の栗を煮る

浜松市南区

小澤信久

五風十雨するが野晴れて一番茶

埼玉県吉川市

人見正

裸木が星抱く道を帰りけり

浜松市浜北区

桜井雅子

へ高校生の部

夏惜む終了の笛なりひびく

浜北西高校一年

阿隅太暉

焼けたねと言われて始まる新学期

浜北西高校一年

竹内碧海

渡り鳥わかれが近い先輩と

浜北西高校一年

インベータージャ

真夜中の鐘の音響く大晦日

浜北西高校一年

市川蓮

ひまわりを上から見れるのいつだろう

浜松東高校一年

大塚ゆい

秋の雷虎も負けない迫力は

浜松修学舎高校二年

立花竜雅

虎たちも眠りにつくよ虫の声

浜松修学舎高校二年

松浦楓弥

夏の夜心落ち着く水の音

浜松修学舎高校一年

松岡陸

E判定先が見えない秋の闇

浜名高校三年

村木里菜

西国の棚田千枚鳥渡る

福岡県宗像市

梶原マサ子

全身で笑ふ嬰兒良夜かな

浜松市北区

二橋三千代

縁台は父の手作り星流る

東京都中野区

西村明子

穂芒を握れば風は手の中に

浜松市南区

小澤幸一

義父逝きて畑の南瓜残りけり

浜松市浜北区

鈴木教郎

いもうとがふたりになったなのよる

浜松市東区

佐野雄一友

朴の木の天を拝みて花開く

浜松市東区

小池江里子

初松魚村に一人の畸人かな

浜松市東区

村松道夫

天高し十湖の髭のやうな雲

浜松市浜北区

河合かより

雁ゆくやしなやかに生き母白寿

新潟県新潟市

荒井千代子

どこまでもとんでいけそうな秋の空

浜名高校三年

村田世那

夏の夜かんざし揺れて心揺れ

浜北西高校三年

戸塚菜々子



# 奨励賞

〈中学生の部〉

夏念仏おかめひよつとこ待つ子供

浜北中部中学校三年  
溝口路海

夏の海のぞくと顔がゆがんでる

笠井中学校二年  
岡本真菜佳

泳ぎ切れ今の自分を超えてやる

笠井中学校三年  
森田裕貴

年のくれたんさん飲んでよつたふり

丸塚中学校一年  
飯尾璃

猫じゃらし握るとちよんと顔を出す

丸塚中学校二年  
窪田虎太郎

さくらんぼ祖母との努力実つたよ

丸塚中学校二年  
西澤美結

夏の山風風風とおどる竹

丸塚中学校三年  
望月仁

春一番団長として腹決める

丸塚中学校三年  
鈴木颯真

〈小学生の部〉

終わらない宿題セミのせいにする

北浜南小学校六年  
鈴木藍

弟が鉢で育てた花オクラ

中部小学校五年  
青木実紅

空見れば心やすらぐ春の風

中ノ町小学校六年  
田山大樹

夏休み太陽かざしあたりぼう

中ノ町小学校六年  
三丸夢生

ソーダ水上に向かってあわおよぐ

蒲小学校六年  
杉山日南

夏が来た背のびしそうな温度計

蒲小学校六年  
松下翔瑠己

サボテンや砂漠の光思い出す

蒲小学校六年  
長谷川大智

努力した組み体操は秋の色

北浜北小学校小五年  
大城唯

柿の花見上げてみれば富士の山

和田小学校六年  
大村葵

金魚鉢見ながら気付けばねむつた

与進小学校六年  
鈴木来実

赤ぞなえ秋のもみじと同じ色

丸塚中学校三年  
野寄伶鼓

十三の私と重なる羽化のセミ

天竜中学校一年  
矢澤未羽

巣の中でゆっくり眠る月夜かな

北浜東部中学校二年  
伊藤霸

後悔はしてはいけない未来地図

積志中学校一年  
渡邊帆希

水田に鴨の子育ててうごく波

積志中学校一年  
川島慶大

百人一首つば飲む音と畳の香

与進中学校三年  
小池可鈴

ログハウス仲を深めた春の雨

中部中学校一年  
若林慧

伝えたい言葉が消える夏の夜

浜松修学舎中等部三年  
山下優騎

日焼けしてほらできちゃった日本地図

与進小学校六年  
磯江姫奈

三日月と欠けたせんべい見比べる

与進北小学校六年  
小粥寛斗

そとにでたうさぎがはねるなつやすみ

豊西小学校一年  
中井響輝

夏休み波にむかって走りだせ

豊西小学校五年  
杉浦優璃

焼き秋刀魚小さくしたい骨の山

大瀬小学校四年  
増田佳希

雨上りしずくの光る夏野菜

大瀬小学校五年  
坪井亜実

つめたさはほつぺにきたよ川あそび

積志小学校二年  
櫻井佑

わすれてはならぬと思う原爆忌

積志小学校五年  
佐藤優里香

ママがつくるいちごゼリーはせかい一

中ノ町小学校二年  
丸山菜乃琶

